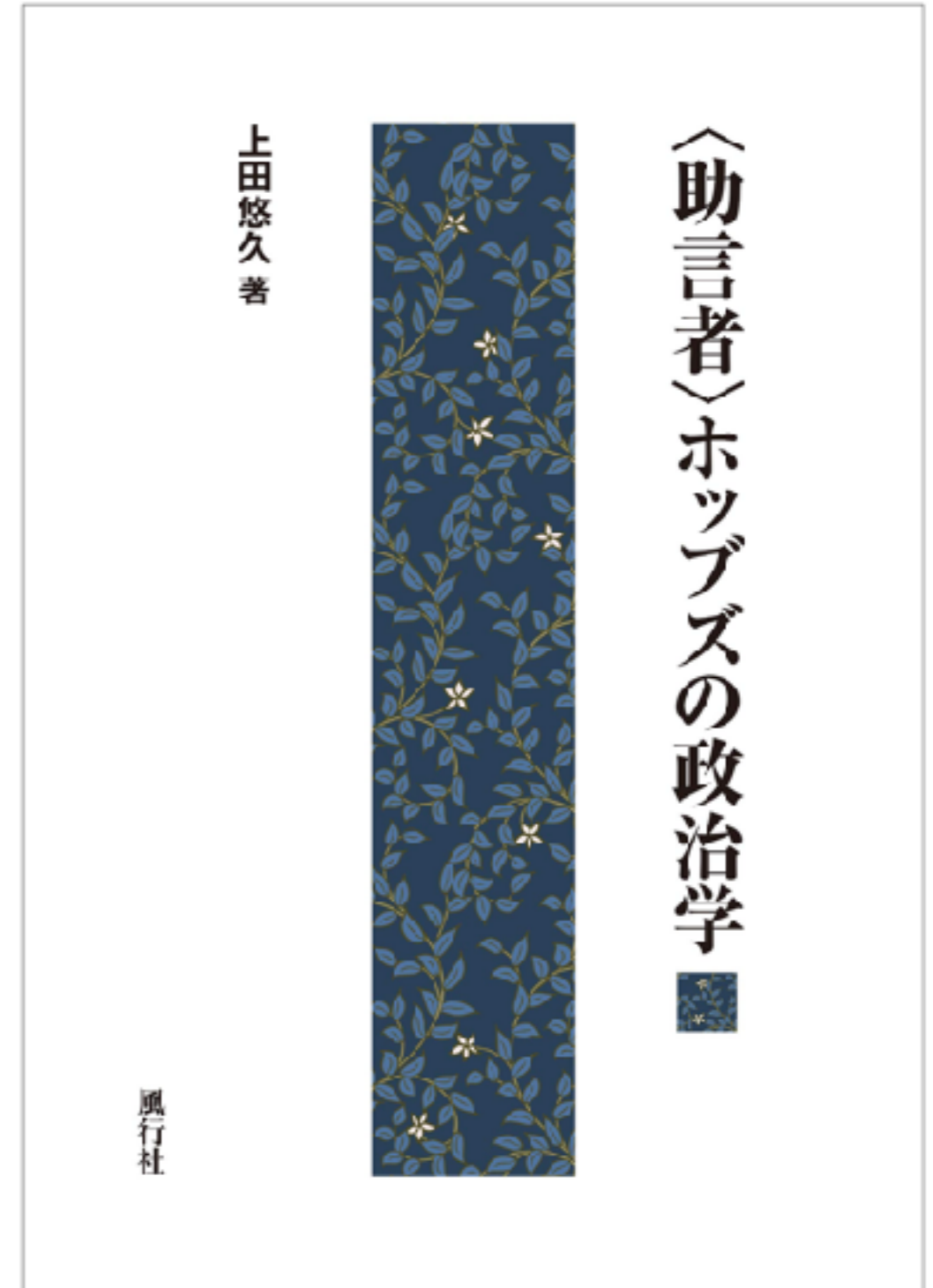


著書紹介

『〈助言者〉ホッブズの政治学』
(風行社、2021年3月刊)



2021年10月30日(土) 社会思想史学会研究大会 セッションB
上田悠久 (茨城大学) haruhisa.ueda.hpt@vc.ibaraki.ac.jp

『〈助言者〉 ホッブズの政治学』

風行社 2021年3月刊

序論

第一部 ホッブズの助言論

- ・第一章 助言の思想史
- ・第二章 助言論と熟慮・熟議

第二部 助言論の文脈

- ・第三章 教会批判と助言論——宗教の文脈
- ・第四章 政体批判と助言論——世俗の文脈

第三部 ホッブズの「助言」

- ・第五章 「助言者」ホッブズの政体構想
- ・第六章 助言と歴史——政体移行論と内戦

結論 ホッブズは「助言者」か

序論

- ホッブズは「実践としての政治」を「近代的学知としての政治学」に転換？
- 政治と哲学の緊張、多様な知
- ホッブズの助言counsel論➡ホッブズはいかなる意味で〈助言者〉か？
- ホッブズの「新しい政治学」とは？

第一章 助言の思想史

- 古代→初期近代、大陸→イングランド
- 古代 | 観照と政治、哲学の実践、思慮
- おべっか使いを斥け、良き友を得る
- 審議的レトリック
- 君主鑑 | キリスト教道徳、国家理性論

第二章 助言論と熟慮・熟議

- deliberation：個人内部＋集合的
- 集合的熟議への懐疑が助言論に発展
- 善い助言者 | 学知＋経験知
- 助言相手の熟慮を補佐 | 帰結の知
- 助言相手に伝達する「ことば」の機能
- 君主制の優位

第三章 教会批判と助言論

- *Elements of Law* 法と助言の対比
- *De Cive* 靈的事柄は聖職者の助言が必要
- *Leviathan* キリストと弟子は助言者、新訳聖書も助言、教会会議に破門権なし、主権者に聖職者従属
- カトリック、ロード派、長老派批判

第四章 政体批判と助言論

法律家批判（対クック）

- 法律家＝助言者、裁判官＝代行者
- 衡平＝立法者の意図＝平和

議会批判（対議会派、パーカー）

- 議会 | 代表者、助言者、いずれも不適
- 評議会の伝統への批判

第五章「助言者」ホッブズの政体構想

クラレンドンとブラモール

- ・ホッブズは哲学者で政体に無知ゆえ助言者として不適（∵政治＝実践）

ホッブズ

- ・主権と運営の峻別
- ・既存の助言者を包含する政体構想
- ・ただし内戦防止の絶対的主権

第六章 助言と歴史 政体移行論と内戦

- タキトゥス論 | ローマ王制→共和制→帝制
- *EL/DC* 主権 解体せずとも民主制→君主制
- *Lev.* 移行は解体のみ、例としてローマ
- 歴史から一般的知識 | 教会統治史と分析・総合の方法
- 経験的知識に基づく政治学

結論 ホッブズは「助言者」か

- 古さと新しさの混淆（初期近代的）
- 現実に沿った多元的政体像
- 既存の助言者と一線を画する助言者
- 絶対的主権だけでは統治できない
- 思考し続ける政治学を体現